

なすべき事

普通課程
担任
田原隆博先生

自分自身の生き方を
改めよう

出水中央高等学校新聞

私たちちは二十一世紀を迎えるに
まつたが、現在の日本の本質は明治
維新以来三つの大きな転換点で
構成されています。その三つとは維新
後、敗戦後、バブル崩壊後の三つです。
この三つの時期においては、これまで
共通しているのは、それまでの
価値観や常識といったものが、
ほどんど通用しなくなること。
大きな社会の変動が起きるといふこと。
上、今回は万人の心をつかむ
ような新しい考え方、ぐぐんと
出てこないのが特徴で、社会に
はしばらく続いたる
と考えられておられます。

このように、先の見えない
時代に生きていく皆さんに望むことばは、色々な人の言葉に

自分らしい人生を

A circular portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie. To his right, the text reads "人との出会い" (Meeting with people) and "特進課程の担任" (Instructor of the Special Course).

担任からのメッセージ

学科・課程・組		担任		副担任	
普通科	普通課程	一	田原謙博	西田弘昭	
	教養課程	一	波留厚一	桝山剛	
	特進課程	1組	宮田成男	鷲田香	
		2組	沖希和	細山田秀樹	
		3組	三ツ石美代	細山田秀樹	
医療福祉科	一	田中善男	長野文夫		
衛生看護科	1組	平床由美子	松坂暉		
	2組	塩崎征子	長坂邦美		
衛生看護 専攻科	1組	白土美香	岩崎智子		
	2組	谷崎恵	岩崎智子		

卒業・修了生の皆さん、
卒業・修了おめでとう。
皆さんか高校教育の所
期の目的を達成し、今日の
日を迎えたことを高く評
価し、これからお祝いいた

ここに、各学級担任から卒業・修了に当たり、皆さんのお門出を祝してメッセージをお贈りします。
保護者の皆様、お子様の御誕生日・御就学前などをからお喜び申し上げます。

耳を傾けながら、自分なりの理想を掲げて、自分らしさを追求してほしという生を。とにかく、「どんなんになつて、とにかく一人一生生きくのですから、自分らしく楽しく生きていけるよう、大限の努力をしてやってください」と勇気を持っていると思ふから。

ますね、たとえば樂しかつたこと、辛かつたことなど、様々ではないでしようか。またまあ三時間同じ場所で同じ時を過ごし共通の経験をしたにはできません。(それも限られた人数の由で...)しかしこれらは一人一人の中に積み重ねられていくのです。これが先進であるいは就職など再び新たに知らない人と出会い関係しながら過ごして

日一日を大切に過ごして
ほしいと思います。
皆さんのお活躍をお祈り
いたします。

読らしい顔です。

「まだ、来年お

す」と涙をこらえて見せる表情で、

が好きでした。試験中、問題

紙にらめっこして解く一心

乱な顔が好きでした。クワッ

マッ、選手すら応援団も一体に

なつたときも好きでした。

たくさんいるときも好きでした。

どう。皆さんと出逢えて、心

かに温むことができました。

嬉しい時は、涙を流し

死になつたら、生きてい

る事にことに感謝

そんな自分になれたし思

じるのは、皆さんたちです。

たくさんのお出でい人、書物

花海・・・を心してま

ております。クラス全員がなまく業式を迎える事ができることがあります。やれしく思います。早い起こせば色々なことができるか心配した一年生研修では、ではチームワークの大切さを団体行動について学びました。楽しいクラスマッチや文化交流祭。二年生での研修旅行実習開始式、施設見習い、年時の熱い体育祭、そこでも楽しいファーケダンス。また、何回も国語問題集を解いて意味づけをし、五分間で説明に対する行う二次の実技試験。練習など色々な出来事や思い出が一杯の三年間でしたね。

私もこの三年間担任として長野先生と力を合わせてクラスのみなさんのお世話(共に)をよぶのがさせてしまひました。「色々な思い出がある」という。この三年間の体験を少しでも生かし、今後の皆さんの御活躍の基礎となることを願っています。頑張ってください。

専攻科生の皆さん、修了されたおめでとうございます。専攻科での二年間は長いようで短いようでしたね。かかった時間は長いのでしょうか。「一年生の時からちゃんと勉強していれば良かった」と悔いの残っている人がいました。

いる」と云々であります。生業の欲求、安全の欲求、所属の欲求、愛の欲求、承認の欲求、そして自己実現の欲求です。生業の力となる自己実現に向か努力する事是非常に専しいのです。

新しき友、先生方との出会いを大切に良い点を吸収し、一日を充実させて自己を

「CAN DO」スピーリット
光陰矢の如し。月日の経つ
は早いもので、もう卒業の季時
迎えました。衛生看護科の学生た
る卒業おめでとうございます。
皆さんは一年間の修業でし
が担任としての責任が果たせ
か反省しています。皆さんは看護婦になりた
という夢を持って、三年間張
りつきました。夢を持つ事
とは素晴らしい事です。叶
えるために目標を立て実
する事で生活に張りと充実感
が生まれ、自己表現につなが
からです。マドローブ博士も
はまつりませんが、夢を叶
す。同じ時代を歩む先輩と
ります。「幸せは自分の心
決めるもの。よき出逢いを

剝きなまなぎとして学習していく。また、見ると立派に成長しているのを実感します。日々成長している皆さんの「パワー」若さをもらしながら過ごしたこの二年間は楽しいものでした。皆さんに出会えてよかったです。これからは、看護の世界でもいろいろな選択肢があります。修了したからこれで終わりではなく、専門性を追求したり他の分野を学ぶなど自分のやりたいことを見つけ、常に自分を高めていってほしいと思います。皆さんのこれから成長と活躍を楽しみにしています。

専攻科二十一回生の皆さん
修了おめでとうござります。
一年の頃は明るく素直な
イメージだった皆さんですが、
二年になり臨地実習などで、
悩みや困難を乗り越えていく
くにつれて自信と落ち着きが
加わったように感じます。

「『後悔先に立たず』といふ言葉があるように、終わった後で悔んでも取り返しはきかないという事です。これから先も同じことだと思いま
す。悔いのないようにその時
その時を大切にして、何事にも精一杯全力を尽くして、頑張って欲しいと思います。しかし、たとえ後悔しても振り返らないでください。時は過ぎています。戻ってはきません。『過去』とは、過ぎ去るということです。過去ばかり見ていたら未来は見えません。未来は自分で開くもの。素晴らしい未来にして欲しいと思います。

Always Something New to Learn

By Ann Maddox, Ph.D.

It has been ten years since I first came to Izumi Chuo High School from Los Angeles. From that very first day, I was delighted by the warmth and hospitality of all the people in the school, and I still feel the same way today in 2002. It is not only the friendliness of the people that I like, but I also find new experiences every time I come to Japan.

Whenever I return to Japan I am surprised again by the many things I can learn about Japanese life and culture. Most people in the United States think that Japan is a very small country, and that the culture is similar all

over Japan. Japan is of course smaller than the United States, but within this small country is a great variety of art, architecture, food, and even language style. It seems to be true that the Japanese people are like a big family, but I think it is also true that each area of Japan has a different style.

This year I was very fortunate to take a trip to Hokkaido, so I could see a part of Japan completely new to me. I was especially interested to visit the Ainu Folklore Museum in Shiraoi. I saw some Ainu dances, some beautiful and unique textiles, and listened to their very unusual music. In

America, the

Native Americans have been working to preserve their own native culture and many Americans support their effort. I believe it is very important for all of us to remember and understand the people who came before us on this planet.

So I was pleased to see that Japanese people in Hokkaido are interested in helping the Ainu people teach the world about their culture.

In Hokkaido, I also visited Otaru, a town which has a very interesting historical museum containing much information about the early culture of Japan during the Jomon period. I could imagine making fire by rub-

bing sticks together and I could see many very old pottery vessels. Outside the museum, many of the buildings were European style architecture, built in the early 20th century. Quite a contrast! By the way, there are many good sushi and sashimi shops in Otaru, so I enjoyed some sushi, too. So the trip was exciting and fun. But I am always happy to return to Izumi, where I can see the rice fields and gardens near my apartment, and where I can say hello again to the students and teachers at Izumi Chuo High School.



アン・マドックス教授全校生徒に指導



アメリカで猛勉強中
—田中転石君—

こんなには。もうアメリカでの高校生活も半年が過ぎました。ついこの間、前期課程を終えて、今、後期課程に入っているところです。僕の英語も日々重ねることに少しずつ達してきていて、授業内容も前よりは理解できるようになり、より楽しい学校生活を送ることができます。その時代に生きた人の気持ちになつてみたり、中でも、「一番評価しているのは「生徒一人一人の考え方大切にする」という点です。国語の授業はもちろのこと、歴史の授業でもそのことが言えています。その時代に生きた人のことを、「自分なり」に考えているといつたようなこともします。

アメリカの授業ではH.O.W.(どのようにして)やH.W.Y.(なぜ)を間わる傾向にあると思います。また、友だちとの会話でも同じこと言えるし、W.H.Y.といふ言葉をよく使います。また、授業でハサミ、

使う機会が多く、歴史や地理の授業ではボスターの製作までの学習などを頻繁に行われます。発表する機会を多く与えられ、今、「一九二〇年新聞の制作をしていくところです。その頃に起きた事件や出来事について、その時代に生きた人の心持ちになつてみたり、う歴史とは懸け離れたもののかを「自分なり」に考えています。その時代に生きた人のことを、「自分なり」に考えるのは、とても大きくなつたと思います。あと半年、アメリカに滞在しますが、さらに色々学んで帰国します。このようなは

USAと出水中央高校

英検合格者

平成十三年度 実用英語技能検定

(財)日本英語検定協会主催

(二級) 河野真季 平博子 古川哲平 深水萌

(準一級) 吉田友美 千千岩春奈 貴島美由紀 永里加代子

(三級) 入江健太 園田絵之 岩本真由美 松浦ひとみ

見附さくら宮の原恵美

井上真紀

吉野美緒

坂井宏光

吉武真美

西和也

波留大樹

秋田恵

鶴崎智子



卒業式の様子

（写真）吉田友美 千千岩春奈 貴島美由紀 永里加代子

（写真）井上真紀 吉野美緒 坂井宏光 吉武真美

（写真）西和也 波留大樹

（写真）秋田恵 鶴崎智子

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

（写真）千千岩春奈

（写真）貴島美由紀

（写真）永里加代子

（写真）波留大樹

（写真）鶴崎智子

（写真）吉武真美

（写真）西和也

（写真）秋田恵

（写真）鶴崎智子

（写真）吉田友美

